

陸生ホタル研

No.28

2010 年 10 月 20 日

陸生ホタル生態研究会

電話 Fax:042-663-5130

Em:rikuseihotaru.07@jasmine.ocn.ne.jp

1. 名古屋城外堀のヒメボタル成虫調査

安田和代・若杉和男・平田秀彦・小俣軍平（文責）

（1）はじめに

ヒメボタルの成虫は、羽化した後は日中、何処に潜んで時間を過ごすのでしょうか。また夜間に♂が♀を求めて発生地を発光しながら乱舞する場合、そこにいる♂の全てが空間を飛翔し、あるいは草木の上や落ち葉の表面に出て来て発光しているのでしょうか。♀は、羽化したあとは♂を求めて何処にいるのでしょうか。

一説によりますと、「羽化したヒメボタルの♀は、日中は草木の葉の裏につかまって静止している」といいます。夜は、「草木に登りつかまって発光して♂を誘引する」といわれます。今回は名古屋城の外堀で、ヒメボタルが羽化し始めてから 2 週間ほど経過した時点で、この問題について調査をしてみました。以下その報告です。

①日中の調査 2010 年 5 月 30 日午後 1 時 30 分～4 時 30 分

「名古屋城のヒメボタルを受け継ぐ者たち」の会の方々に現場を案内していただきご指導していただきながら、陸生ホタル研からは、小俣が参加しました。午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで、夜間に成虫が多く飛翔した場所を回り、その自然環境と♀成虫が昼間どんなところに潜んでいるのかをみて歩きました。

1 :

● 外堀の遊歩道沿いの調査

ここは名古屋城の外堀の土手の上で日当たりがよく地面はかなり乾燥しています。ヒメボタルの幼虫は棲みにくい環境だと想像するのですが、夜になると大木の下や草むらからヒメボタルの成虫が羽化して 20～30 匹飛翔するのが連日観察されたそうです。地面のイネ科の植物の中、大木の根本の周囲などを調べました。



2 :

● 外堀の南面の調査

ここは、外堀の南向きの土手に構築されたテラスでイネ科の植物が生い茂っていました。夜になるとこの中から羽化したヒメボタルが点々と飛び出してくるそうです。

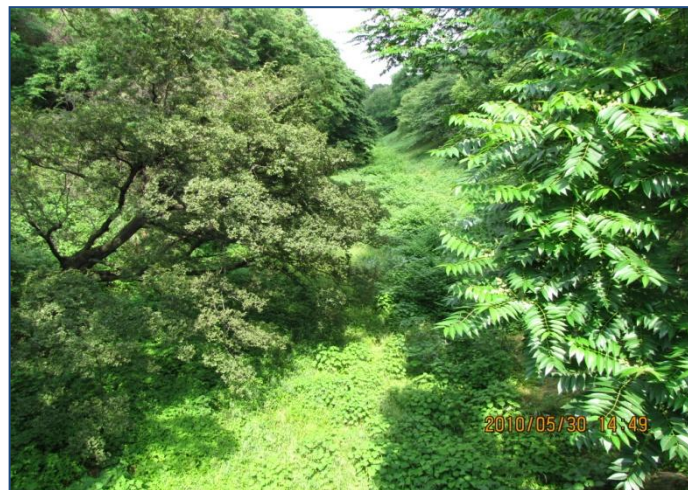
ここも1:と同様に自然環境としては、かなり乾燥している場所で、ヒメの幼虫にとっては居心地の良い場所とは思えないのですが、何か好条件があるのでしょうか。



3 :

ここは西方向から、外堀の底部を見下ろしたところです。市の中心部とは想像もできない風景で、草木が生い茂っています。ヒメボタルは左側の南向き斜面から多く発生するそうです。

ここでは♀の居場所の調査はできませんでした。



4 :

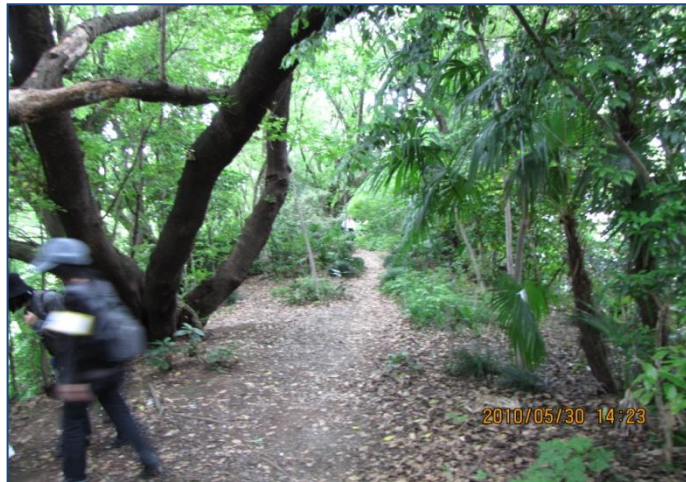
ここは、護国神社の参道と背中合わせになる場所の南向き斜面です。50度近い急な斜面で、樹木に覆われてはいますが、南向きの斜面なのでかなり乾燥しています。しかし、外堀の中ではヒメボタルが比較的多く発生する場所だそうです。



5 :

ここは、4 : の斜面を護国神社側へ登った場所ですが、外堀を散策する人々が日常的に歩きますので中央部は踏み固められています。

しかし、夜になると、両サイドの草木が生い茂っている場所からは、スイスイとヒメボタルの♂が飛び出して来るそうです。かなり乾燥した環境です。



6 :

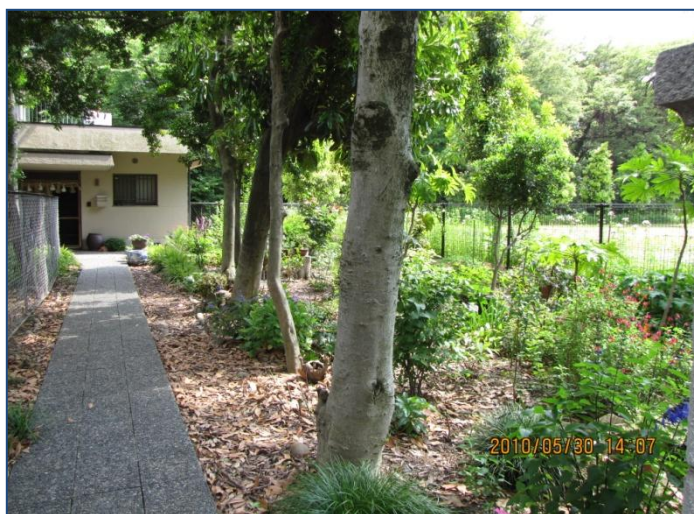
ここは、5 : の所を護国神社側へ下った所で、昨年の秋から集中的にヒメボタルの幼虫の調査が続いている場所です。今年の冬に伐採された楠の枝が大量に積み重なっています。昨年の秋にはここで沢山の幼虫がみつかっていました。

ヒメボタルの幼虫がこの下からも羽化して飛び出してくるのだそうです。



7 :

ここは護国神社の境内にある神主さんのお宅のアプローチです。樹木の下は、日当たりの良い花壇になっていますが、この場所からもヒメボタルが羽化してくるのだそうです。八王子でも陸生のオバボタルやムネクリイロボタルが、街中で少数みられることがありますが、しかし花壇の中からヒメボタルとは・・・驚きです。



8 :

これまでも何回か月報に書きましたように、名古屋城の外堀は陸生の貝類が豊富に生息しています。この日も回って歩いた先々で、何処でも貝類に出逢いました。写真は、「イセノナミイマイ」という貝だそうですが、外堀の各所で見かけました。特に護国神社参道側との境では低木の葉の上にこのマイマイが、



沢山いました。これだけ大きくなるとヒメの幼虫は食べにくいと思いますが、この種は、初夏～秋まで、大量に子どもを産みますので、それが食事の対象になっている可能性はあります。

②昼間と夜間の二回にわたって調査した場所の状況

9 :



ここは、護国神社の参道と名古屋城の外堀の逆目の場所で、左側が外堀になります。この場所でもこの時期、每晚ヒメボタルが乱舞するのが見られるそうです。羽化している成虫や、これから羽化する蛹を踏みつけてはいけないので、足元に気を配りながら地面に降り積もる落ち葉を静かに取り除いて調べてみましたが、昼間のこの時には成虫はまったく見つかりませんでした。

ところが、この同じ場所でこの日の夜、午後9時前から翌日の夜明けまで徹夜で観察をしてみると後述の調査報告のように、様相は一変しました。

10：同じく護国神社参道沿いの北斜面



3：の場所の左側、外堀の土手の斜面です。アオキを中心にした低木やシダ類が茂り落ち葉が降り積もっています。30 日午後 9 時過ぎから 31 日の早朝にかけて、この場所からもヒメボタルが沢山羽化して出て来ました。

● この日の気象状況 天候：晴れ・気温：22℃・地温 16.7℃・湿度 22% （午後 9 時 40 分）

③昼間の調査結果

昼間の調査は、上述のように午後 1 時 30 分から 4 時 30 分までの 3 時間でした。時間に追われての調査でしたが、多発生地の中・低木や草の葉の裏、地面の落ち葉の下からは、ヒメボタルの成虫は 1 匹もみつきませんでした。

草木の葉の裏にいなかったのは、さもありなのでしたが、前夜もヒメボタルが乱舞した場所で、落ち葉の下を探しても成虫がみつからないのは何とも不思議な結果でした。成虫の多発生地の落ち葉の下や低木の葉上には、イセノナミマイマイやキセルガイが沢山みつかりました。

④夜間の調査とその結果

夜間の調査は、重点を護国神社参道沿いの外堀の北斜面に絞って、その他の場所は、夜間の調査の途中で成虫の発生状況を 2 回確認に出かける程度にとどめました。重点地区は、30 日の午後 9 時～31 日の日の出まで、若杉・平田・小俣の 3 人で徹夜の調査になりました。

まず驚いたのは、日中に落ち葉を手で掃いて調査をしても成虫がまったくみつからなかった場所で、♂成虫が飛び始めた 9 時過ぎになって、落ち葉の下にまだ潜んでいる蛹に気を配りながら落ち葉を軍手を、はめた手でそっと掃いてみると、ヒメボタルの成虫が、落ち葉の下や落ち葉の中から発光して次々にみつかったことです。以下この中からいくつかの例を、午後 9 時過ぎから明け方の午前 4 時半まで発見した時間の順に写真で提示します。

1 :



2 :



1 : は、21 時 34 分、降り積もった落ち葉をそっと取り除くと落ち葉と地面の接点に♂成虫がいました。観察のために照明を当てましたので、土塊の間に側板を下にして隠れています。写真の中央やや右より。

2 : は、21 時 40 分、落ち葉の中にいた♂成虫。このとき、この観察地では、100 m²程の範囲に、20～30 匹の♂成虫が発光しながら低く飛翔していました。奥の方に積み上げられた楠の伐採された枝の下からも♂成虫が発光しながら点々と出て来ました。山のように積み上げられた枝の下から出てくる成虫には、驚かされました。

3 :



4 :



3 : は、落ち葉の上で♀成虫が静止し時々思い出したように発光していましたが、近くを飛翔している雄は 1 匹も近づきませんでした。交尾と産卵を済ませて静かに死を待っている♀ではないかと思います。時刻は午後 11 時 31 分でした。

4 : は、静かに落ち葉を手ではいたら発光してみつかりました。♀成虫です。撮影のため照明を当てると、落ち葉の間に逃げ込みました。時刻は午前 1 時 21 分。

5 :



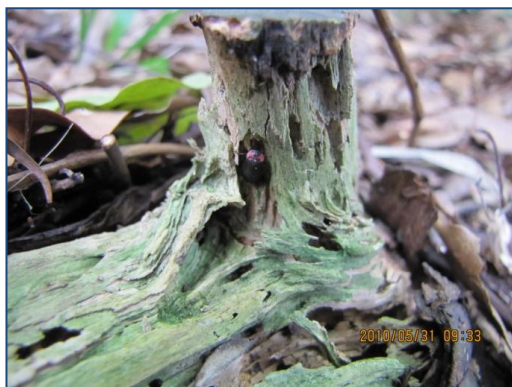
6 :



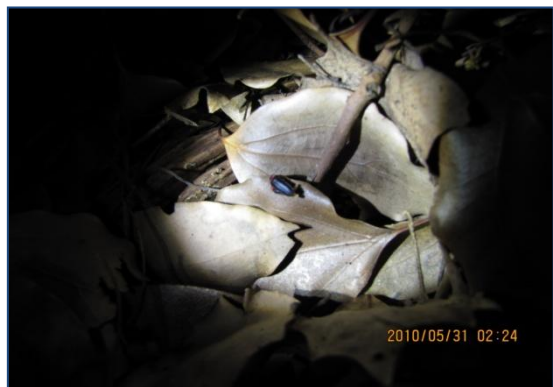
5 : は、午前 1 時 23 分に、4 : と同様に落ち葉を取り除いた時に落ち葉の間から発光して転がり出しました。♀成虫です。この個体も撮影中に落ち葉の間に逃げ込みました。

6 : は、腐蝕した小さな切り株の根元、立ち上がりのところにできた虫食いの穴に♀成虫が下向きに静止しています。発見撮影したのは午前 1 時 32 分ですが、状況からしてこの個体は、日暮れからここにいたものと思われます。♀ですが発光することはない、飛翔している沢山の♂成虫も見向きもしませんでした。この個体は、その後動いて向きが上向きに変わりましたがそのまま虫食いの穴の中で静かに過ごし、次の 7 : の写真の様に翌日の朝、午前 9 時 33 分の時点でも同じ所にじっとしていました。

7 :



8 :



8 : は、午前 2 時 24 分に落ち葉の下でみつかった個体群で、♀1 匹に対して♂4 匹が交尾のために争いを繰り返していました。この個体群は、日が昇った午前 5 時以降も同じ場所で争いが続いていましたが、午前 8 時 30 分過ぎには全て姿を消しました。

9 :



10 :



11 :



12 :



9 :・10 :・11 :はこの夜にみつかった交尾中の個体群の2例目で、9 :は午前1時44分にシュロの幼株の茎のところにつかまって1匹の♀に4匹の♂が争っていました。10 :はこの個体群の、午前3時27分時点の様子。11 :は、夜が明けて午前7時45分時点でのこの個体群の交尾の様子です。♂の数が2匹に減っています。この個体群はその後、午前9時過ぎに見たときには全て姿を消していました。

12 :は、午前3時46分、ほのかに空が明るくなり始めた時に落ち葉の下からみつかった♂です。この夜は、3時過ぎから飛翔する♂の個体数が次第に減少して、最後の個体が発光と飛翔をやめたのは、午前4時28分、日の出の少し前でした。

⑤結果の考察

ア. 成虫の発生状況

名古屋城外堀のヒメボタルは、「深夜型」と聞いていました。しかし、5月30日は、午後9時過ぎにはすでにかかなりの数の♂成虫が発光しながら低い高度で飛翔していました。そしてこの発生傾向は、多少の増減はありましたが、翌日の午前3時過ぎの夜明け近くまで継続してみられました。深夜から明け方にかけて、飛翔する♂の数が徐々に減少していく傾向が見られました。これは、発生数が減るのか、あるいは、♂が交尾する相手

を見つけて落ち葉の下で交尾に入り、みつかる数が少なくなるのか、その点については何とも言えませんが、交尾の要因の方が大きいのではないかと思います。

イ. ヒメボタルの♂が発光しながら♀を探して飛翔中の行動で、感心させられた事

ゲンジボタルの♂は、夜間発光しながら飛翔しているときに観察していると、しばしば、♂が草木の葉上で発光している♂の所へ舞い降りて、発光している♂にマウントし交尾しようとしします。また、携帯電話の交信中の発光にも反応して飛来します。クロマドボタルの幼虫をビニル袋に数匹いれて、発光させていると♂が飛来してきます。自動車のハザードランプには敏感に反応して飛来してきます。

つまり、交尾行動で見る限り、神田左京の説のように、ゲンジボタルの♂の光りに対する反応はかなりいい加減なものです。巷でさまざまに解釈され報告されているような、コミュニケーションとして正確なものではありません。ところが、この夜の観察では、ヒメボタルの♂がヒメボタルの♂の発光に反応して♂のところに飛来し、マウントするような行動は明け方まで一つもみつきませんでした。また、産卵が終わったと思われる♀もいましたが、発光していてもここに飛んでくる♂は、一度も見かけませんでした。

横道に逸れますが、オバボタルの♂とクロマドボタルの♂を同数同じ容器の中に入れておくと両方とも発光しますが、オバボタルの♂が、クロマドボタルの♂を捕まえてマウントします。クロマドボタルの♂は、これを嫌って振りほどこうとしますが、オバボタルの♂はなかなか離してくれません。

ウ. 夜のヒメボタルの成虫の居場所

上記の資料写真のように♀が草木の幹や葉につかまって♂を待つ例は一例しかみつきませんでした。落ち葉の下で交尾している例も一例見つかりましたが、後は上記の資料写真のように、落ち葉の下や中から雌雄別々にみつかる例は沢山ありました。しかし交尾には至っていませんでした。10m×6m程の面積を3人で午後9時過ぎから午前4時半まで観察していて、♂成虫は常時20~40匹飛翔していました。落ち葉の下は所々をサンプル的に調査しただけですから多分に推測ですが、飛翔している♂成虫と同じ数くらいの♀成虫が落ち葉の間や下に隠れているのではないかと思います。しかし、落ち葉の中や下にいたのでは飛翔する♂には光りは見えないわけで、これは何とも不思議な現象でした。

また、♂成虫も盛んに飛翔しているときに、落ち葉の下や中かなりの数の♂が隠れていてみつきましたので、これも探雌行動から見ると♀同様に何とも腑に落ちない現象でした。落ち葉の下からみつかる成虫はその晩羽化したばかりの個体ということもありますが、そうだとすると、じっとして動かないはずですが、みつかった個体はそのほとんどが雌雄ともに盛んに動き回りましたので、こうした見方は当たらないと思いました。

エ. 交尾場所と産卵場所の距離

シュロの若芽のところと落ち葉の下で交尾している個体群がみつかりましたので観察

し、夜が明けても交尾がつづいていましたので、朝食を取り休憩して、9時頃に見ましたら、二組とも全て姿を消していました。

そこで、交尾していた場所の付近 1m くらいの範囲を 3 人で落ち葉を取り除きながら産卵している♀を探してみましたが、二カ所とも、♂♀共にまったく姿を見せませんでした。交尾を解消した後で、短時間のうちに飛べない♀もかなり遠くに移動していったようです。交尾していた場所の至近距離に産卵するだろうという私達の仮説は、見事にはずれました。また 2011 年の 5 月に再挑戦です。

●今回のヒメボタル成虫の発生調査で注目されたのは、上述のようにヒメボタルの成虫が宵の口から明け方まで、飛翔しないで落ち葉の下に潜んでいる個体が雌雄ともかなりの数になったことです。これは、ヒメボタルの成虫の発生数のカウントに関係してきます。

発生数調査については、これまで全国各地の報告が沢山ありますが、報告をみたり聞いたりした限りでは、発生地で発光しながら飛翔している個体、あるいは発光しながら静止している個体の数を目視で確認し記載しているように受け取れました。したがって、発生地で同じ時間帯に落ち葉の下に潜んでいる個体は見えないわけですからカウントされていません。落ち葉の下に成虫が潜んでいることが、名古屋城外堀の特異現象かどうかは、今後の各地の調査結果を見ないと何とも言えません。いずれにしてもヒメボタル成虫の発生数調査上の今後の大きな課題です。

2.静岡県富士宮市佐折 西沢川のゲンジボタルの調査

蒔田 和芳・小俣軍平（文責）

（1）はじめに

7月3日・4日とここ西沢川の天子の森キャンプ場で日本ホタルの会の観察会が開かれました。蒔田も小俣もこの観察会に参加しました。観察会の終了後4日・5日と二人で残ってこの場所でのゲンジボタルの発生状況と、昨年確認できなかった産卵場所の調査を行いました。以下その結果を報告します。

1 :



2 :



ゲンジボタル発生地の自然環境、定点から見た下流方向 1 : と同じく、上流方向 2 : 流水面が見えないほど草木に覆われています。

・この場所で、4日の夜は晴れて、200匹ほどのゲンジボタルが発光しながら飛翔するのが見られました。昨年と比べて今年は、発生地が上流に向かって300m拡大しました。特に注目されたのは、西沢川の本流ばかりでなく2：の写真に見える、奥の杉林の中の水道水の源地にある貝類のみつからない細流からもゲンジボタルが発生していたことです。

4日の夜午後8時過ぎから10時過ぎまで、蒔田・小俣の二人で、ここのゲンジボタルの♀が何処に産卵するのかを重点に観察しました。月報で昨年何度か報告しましたように西沢川は天子の森キャンプ場の安全対策の一環として、洪水対策をばっちり施された川です。

川底にも草木が生えていたり大きな岩石にびっしり蘚類がついていたりしますが、恐らく3：の写真のようになった、護岸の壁面が主要な産卵場所であろうと見当をつけて重点的に観察しました。そうしましたところ、蒔田さんの観察で午後9時半過ぎになって、右岸の石垣上で2匹のゲンジボタルが静止して発光しているのがみつかりました。対岸まで6m程ですが、産卵中のゲンジボタルの♀に間違いのないようでした。しかし、前日の雨で西沢川は水量がかなりあり危険でしたので夜間の調査を諦めて、5日の早朝に再調査することにしました。以下5日の朝の調査風景です。対岸には山側から回り込んで、脚立を使って川に降りました。

3：



産卵場所は対岸の蘚類の生えた石垣

4：



蘚類を押し開いて卵を探す蒔田和芳氏

5：



同じく壁面に張り付くようにして調査する蒔田氏

6：



3～4cmに伸びた蘚類の中深く点々と産み付けた卵。

7 :



これは6, 7個固めて産卵されたもの

8 :



産卵場所の壁面に潜んでいたヒキガエル

・フィールドで蘚類に産卵されたホタルの卵を見つけ出すのは、九州のように表面にびっしりと産卵された場合は別として、想像以上に難しいことです。この日の場合も、前夜産卵中の♀のホタルのいた場所を確認しておきましたので調査ポイントを絞れたので良かったのですが、それでも蘚類の表面ではなく根元近く3～4cm中に入った所に1個ずつ産み付けてありましたので、二人で懸命に探しましたが調査は難航しました。「このあたりに雌が発光して静止していた」という知識だけでは見つけれなかったと思います。見つかることができたのは、蒔田和芳氏の狭山丘陵での永年の調査経験とこうした問題に取り組むときの執念です。

・産卵地点は、この朝の増水した水面から130cmの所でした。かなり高い所でしたので、「今年は卵が孵化するまでに西沢川では、洪水の危険性が高いのではないかと」予想しましたが、案の定今年はこの後集中豪雨が発生しました。

動物と気象変動の問題については、カマキリの卵の産卵場所や、ハチの巣のついでいる高さが話題になりますが、ゲンジボタルは、我々人類の未だ知ることのできない、こうした気象の異変に関する事前の変動を感知する何らかのセンサーを持っているのかもしれませんが。これはまったくの蛇足ですが……。

・それから、この産卵場所の石垣の草陰に張り付くようにして、ヒキガエルが1匹いました(8:)。恐らく昨夜からこの近くにいたものと想います。このことで思い出したことがありました。私が、教職にあったときに八王子市内の小学校で、校庭の片隅に(1978年6月)子どもと教員と父母で造成した池と湿地と小さな川と水車小屋のある植物園がありました。ここでは、地域で絶滅の恐れのある植物やゲンジボタルを保護していました。まだ、「サンクチュアリー」という言葉がマスコミに載り始めたばかりの頃に「環境教育」という取り組みは市内では始まっていませんでした。この植物園で、ゲンジボタルが飛んでいる夜にヤマアカガエルのお腹がリズミカルに発光しているのを見ました。カエルがゲンジボタルの成虫を丸呑みにして、カエルのお腹の中で発光していたのです。カエルはゲン

ジボタルを食べないと聞いていましたので、これは意外でした。今回のヒキガエルもゲンジボタルを食べるためにいたのかどうかは確定できませんが、これも今後の調査課題です。

3. 富士山麓 海拔1100mの原生林にゲンジボタル♂成虫

小俣軍平（文責）

（1）はじめに

これは上記の日本ホタルの会の観察会、7月3日の夜のことで、降りしきる雨の中を県立富士山麓山の村の演習林に入りヒメボタルの調査をしていたときに、宇田川弘康氏がミズナラの幹上でゲンジボタルの♂成虫を1匹見つけました。時刻は9時半過ぎだったと想いますが、陸生のホタルが生息する富士山麓の原生林の中で、川とはまったく縁のない場所（海拔1100m）でしたので大変驚きました。



富士山麓山の村演習林 撮影 蒔田和芳

・この問題については、月報に登場したことのある、天子の森キャンプ場の管理人であり、富士山麓でハンググライダーの指導員をしている中村成次氏が、この日の前7日間の静岡管区気象台の気象情報を分析して、富士山麓の静岡県下のどのあたりからこのゲンジボタルが吹き上げられてきたものか調査研究をすることになっていました。

しかし、残念なことに中村氏は、その後体調を崩され、現在療養中でこれは取りやめになりました。その後、中村氏の電話でのお話ですと、7月3日の前1週間ほどは、静岡県側の富士山麓はしばしば積乱雲が発達して雷雨が発生していたそうです。そのことから推定するとこの夜のゲンジボタルは、山麓の川のどこからか積乱雲の上昇気流に乗って原生林まで上がってきたものと想われます。

・その後、富士宮市の富士山麓にある、奇石博物館の荻原美宏先生にお聞きしたところ富士宮市の富士山麓では、川のない原生林の中でゲンジボタルの成虫が見つかったことは過去にも複数の例があるそうで、今回が初めてと言うことではないようです。そうだとしますと2008年に中村成次氏が、「富士山麓でハンググライダーで滑空していると2000～3000mの高空でも、周囲を飛翔する昆虫たちを沢山みかける」ということとも関連して、今回の宇田川氏の発見は、「ゲンジボタル成虫の南アルプス越え」を現実の問題として検討することを示唆しているのかもしれない。

4. 静岡県立富士山麓山の村管理棟前の駐車場の芝生に多発生したオ

バボタル

小俣軍平（文責）

（1）はじめに

これも、7月3日、4日の日本ホテルの会の観察会で宿泊した「静岡県立富士山麓山の村」での出来事です。下掲の写真のように管理棟の前の駐車場の土手の芝生に朝からオバボタルが多発生していました。見つけたのは後藤洋一氏ですが、山の村開設に当たって原生林を伐採し、大型工作機を導入して造成された南向きの日がかんかん当たる芝生に、オバボタルが多発生しているのを見て参加者一同びっくりしました。この時、芝生の手入れをしていた職員の方のお話しですと、今年初めて発生したわけではなく前から飛んでいたようです。ただ、「ホテルとは知りませんでした」とのことでした。芝生にはざっと見た限りでは陸生の貝類の姿はなく、職員の方の証言でミミズは沢山生息しているようです。

1：



管理棟、前面の広場が駐車場になっている

2：



ここにオバボタルが多発生

3：



観察調査中の左から職員、創価大学井上務先生
蒔田和芳氏。

4：



芝生の葉に登ったオバボタルの成虫 提供蒔田和芳

5. 窓のないクロマドボタル♂成虫

(1) はじめに

クロマドボタルは、♂成虫が黒色で前胸の前部の左右に楕円形の透明な窓があることから「クロマドボタル」という和名が付けられたと言われています。その通り広域調査で採集したクロマドボタルの♂成虫は、全て窓がありました。

ところが、2007年6月23日八王子市立の長池公園（ながいけこうえん）に昆虫調査にきた横浜市の方がこの公園の遊歩道で撮影したクロマドボタル♂成虫に窓が無いことに気づき「クロマドボタルなのにこれはなんだ？」と驚いてブログに公開しました。

その時は、珍しい話だけでも昆虫にはそうした変わった個体が希に出てくることあるくらいに思っていました。ところが2009年に日本ホタルの会の理事で環境庁にお勤めの宇田川弘康氏が、岩手県の折爪岳で、「窓のないクロマドボタル♂成虫がいた」と教えてくれました。これが2例目になりました。

そして、今回7月3日に富士宮の西沢川で日本ホタルの会の観察会で、蒔田和芳氏が窓のないクロマドボタルの♂成虫を見つけて撮影しました。

1 :



窓のないクロマド♂成虫 撮影 蒔田和芳

2 :



撮影した場所、中央の草のはえた岩石

これが3例目です。こうなってくると、東京と岩手と静岡と3箇所ともかなり離れていますが、よくある突然変異の個体と笑って済まされないように思えてきました。クロマドボタルと言えば、窓があるものとして気に留めないでいると、見落とす可能性がかなりありますのでこの窓のない♂成虫は、実は各地にかなりいるのかもしれませんが。

全国の皆さん、来年のクロマド・オオマドの羽化の時期には是非常識を疑ってじっくりと観察してみてください。そして窓のない個体が見つかりましたら是非写真に撮って下さい。それから標本も忘れないで採集して下さい。標本はお手元においていただいて、写真は陸生ホタル生態研の事務局にメールで送信して下さい。

それから、もう一つ、ここ3年ほどの間に陸生のホタルの写真がインターネット上に沢山載るようになってきましたのでこちらも是非気をつけて見て下さい。

6. お知らせと連絡

●ホームページの開設について

「陸生ホタル研」のホームページについては、昨年の秋ブログを開設したときにも書きましたように、会員の方々から「開設して欲しい」という要望が事務局に再三寄せられていました。しかし、齢傘寿が迫っている事務局担当の小俣にとってはこれは、とても無理だと諦めておりました。

ところが、今年の8月に会員で東京都在住の伊藤正弘・理子ご夫妻から、「ホームページ開設と管理に協力しますよ」というありがたい申し出を頂いて、陸生ホタル研のホームページ開設が可能になりました。本当にありがたいことです。ご夫妻には心から厚く御礼申し上げます。

そこで早速開設の作業にかかり現在工事中です。当初は11月はじめに公開の予定でしたが内容の原稿執筆をする小俣の作業が遅れて、今月（11月）末になりました。

今回の開設の第一の目的は、板当沢ホタル調査団以来12年間にわたり、全国の皆さん方のご努力で蓄積されてきた、かけがえのない本土産ホタルの生態研究に関する資料を、ネット上に公開してできるだけ多くの方々に見ていただくこと。

第二は、事務局担当の小俣に不慮の事態が生じたときに、突然会の活動が停止することのないようにし、蓄積された資料の公開ができるだけ長く続けられるようにすること。

第三は、ホタルの生態に興味と関心をもって、人知れず全国各地で活動している方々との交流を拡大し、ネット上でホタルの生態について議論ができるようにすること。

内容としては、現在のところ次のような事項を考えています。

- ・ホームページ開設に当たって会長小西正泰の挨拶
- ・本土産ホタル10種の生態（ここでは図鑑のようにざっと紹介します）
- ・活動報告（ここでは、板当沢以来12年間にわたる調査研究の結果明らかになった、本土産ホタルの生態について種別にその内容を解説し報告します。）全て掲載するまでに少し時間がかかります。まず、マドボタル属から始めます。
- ・研究論文・資料（ここでは、前項の活動報告に関する論文・資料を掲載します）。
- ・調査月報（全文掲載）全て掲載するのに少し時間がかかります。
- ・ホタルとこの人（ここでは、板当沢以来12年間にわたりお世話になってきました、全国各地の人々をその活動状況とともに順次紹介していきます）。
- ・リンクページ（全国各地で活躍している方でホームページやブログを公開している方々）。
- ・その他（会則・連絡先など・・・）。

以上ですが、とにかく初めてのことで分からないことばかりのスタートになります。全国にはホタルに関する立派なホームページを開設している方が沢山います。またPCに詳しい会員の方々もいますので、どうか皆さんお力を貸して下さい。よろしくお願いいたします。URLは、「<http://rikuseihotaru.jp>」を予定しています。